

## ■ グループ紹介

## 住友電設株式会社

## 1. 沿革

当社は、昭和25年4月に設立された太陽電設工業株式会社に始まる。

その後、業容の拡大と経営の多角化をはかるため、昭和44年3月、工藤電気株式会社と合併し、太陽工藤工事株式会社と社名を変更した。この合併により内線部門が強化され、地中線・送電線・通信部門および空調・プラント部門と一体となりバランスのとれた設備工事会社として発展した。さらに昭和60年7月、社名を現在の住友電設株式会社に変更するとともに同年10月住電空調株式会社と合併し、空調衛生部門の一層の充実をはかった。その後も技術開発に努めるとともに、技術教育にも意を注ぎ、エンジニアリング機能を備えた総合設備業として現在に至っている。

## 2. 事業内容

当社は、電気設備をはじめ、電力輸送設備、通信設備、空調衛生設備、プラント設備の設計・施工・保全を主たる事業としている。事業の展開にあたっては、時代の変遷をよく見きわめ、技術と信用を重視する姿勢を貫いている。

事業所としては、東京、大阪に本社機構、名古屋に支社をおき、拠点として、北海道から沖縄まで全国に支店（13か所）、営業所（42か所）、出張所（4か所）を配置して国内活動を行っている。また、海外では、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、シンガポールに拠点（支店、駐在員事務所、合併会社等）をおき、諸外国の建設に協力している。

## 3. 現況

資本金 63億63百万円（平成3年3月末現在）  
 従業員 1,549名（平成3年3月末現在）  
 売上高 1,211億17百万円（平成2年度）  
 本社（東京）東京都港区芝2丁目2番17号  
 （大阪）大阪市西区阿波座2-1-4

## 4. 技術開発

当社における、技術開発のとり組みは大きく次の3つに分けられる。

- イ) 工法に関するもの
- ロ) 設備システムに関するもの
- ハ) 技術支援システムに関するもの

これらの開発状況の一部について紹介する。

## (1) 延線同期自動運転および遠隔監視システム

近年の架空送電線は、大容量化し、太線化、多導体化され複雑大規模なものとなっている。従来、延線は人間の高度な熟練に依存していたが、正確さ、速さ、安全性にはおのずと限界がある。このため延線速度、条長、張力等のデータをパソコンに入力し、延線ウインチ、延線車の自動制御を行うとともに、モニタTVにリアルタイムに映像を写し、監視できるようにしたものである。

## (2) 電力ケーブルの洞道内管理システム

超高压送電線にCVケーブルが適用されるようになったこと、またそれが都心等に導入される事例が増えたこと等により、洞道内布設技術の高度化が要求されてきた。このため従来の有人監視、数値計算による確認および間接測定から、ケーブルの動きに即応した、側圧や弛みの検出による実測管理、ITVと組合せた一括集中監視を可能にしたシステムの開発である。

## (3) アメニティ寮システム

寮生の生活環境快適化と管理人業務の省力化、および入退館管理の簡易化とセキュリティの向上等多くのニーズに応えるため、プログラマブルコントローラを駆使し最新のデジタル交換制御用インターフェース(OAI)等を導入して開発した寮システムである。

## (4) 人工造雪設備（スノーメーカーシステム）

スキー人口の増大とともにスキー場も増えているが気候の温暖化等の影響もあり、自然の降雪に左右されているのは経営が成り立たない所が増えている。そのため、人工造雪設備の需要が高まっている。当社は、①気温予測による自動発停、②大気温度変化による自動

水量調整, ③雪質選択による水量の自動調整等の自動化項目を設定して開発中である。

(5) 情報ネットワークを構築する統合配線システム

オフィスの中でのコンピュータおよびネットワークは増大する反面, 通信プロトコル, 配線メディア, 配線トポロジーの異なるものが混在する環境が生じ, 配線, 端末の増・移設がむづかしくなっている。この対策として, ネットワークコネクティビティを向上させるため統合配線システムを開発し実績を上げている。

## 5. おわりに

当社の大阪本社ビルは, 過去の蓄積と総力を結集して, ビル機能, アメニティ機能に優れた高度な近代的インテリジェントビルとしてこのほど完成した。新世紀に向けてたゆみなく技術開発に意を注ぐ所存である。

所在地: 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4

(文責: 技術本部大阪技術部部长 田辺 清)

### 協賛行事ごあんない

## 「新材料の試験評価国際シンポジウム」開催概要 (案)

### 1. 趣 旨

VAMAS(Versailles Project on Advanced Materials and Standards)による新材料の試験評価に関する研究は, 我が国では, 科学技術庁の科学技術振興調整費によって進められております。本研究は, VAMAS計画の第1期6ケ年の最後の年にあたる1992年の3月まで継続されます。

この国際シンポジウムは, 「新材料の試験評価に関する研究」をテーマとして, 広く内外のVAMAS計画関係者をお迎えし, 我が国での研究成果を公表するとともに, 討論を通じて次期の研究課題を模索することを目的とし, 本年12月, 東京にて開催いたします。

2. 主 催 新材料の試験評価国際シンポジウム組織委員会 (委員長 東京大学名誉教授 三島 良績)

3. 後 援 科学技術庁, 通産省工業技術院 (申請中)

4. 会 場 虎ノ門パストラル

(〒105 東京都港区虎ノ門4-1-1)

6. 参加費 一般 30,000円

大学・国公立研究所 10,000円

5. 期 間 平成3年12月16日(月)~18日(水)

### <内容>

#### ・基 調 講 演

A: 高分子・生体材料

B: 金属セラミック材料

C: 表面化学分析

D: 低温構造材料・超電導・データベース

・パネルディスカッション

#### ◎問い合わせ先

(株)ニューマテリアルセンター

〒550 大阪市西区靱本町1-8-4

大阪科学技術センター内

TEL 06-443-5321